

# フィールドワークによるホテル・旅館と地域の連携

大阪商業大学 総合経営学部 宮城ゼミナール 3回生 三野環 池田敬介 久保昇平 深井順矢 西村有貴 田淵勇輝 吉岡すみれ

## 1.調査目的

現在、日本は「観光立国」として訪日外国人観光客を2030年に4000万人に増やす計画がある。

観光立国として、訪日外国人観光客を増やすには、他の観光地でも、外国人の対応を考える必要があるため、「訪日外国人観光客1,036万人のうち、約10人に1人が京都に宿泊している京都」から知見を得ることを目的に調査している。

## 2.現状分析

京都には年間約5,162万人の観光客が訪れている。

しかし、宿泊者は約1,308万人とほとんどの観光客が日帰りである。近年宿泊数は伸び悩んでいる。そんな中、宿泊施設はいろいろと変化している。それは、旅館数が徐々に減少し、平成8年をさかいにホテル数が旅館数を上回った。さらに、新たな宿泊施設業態としてアットホームで自由なスタイルのゲストハウスが増加している。



(図表 1.京都位置図)

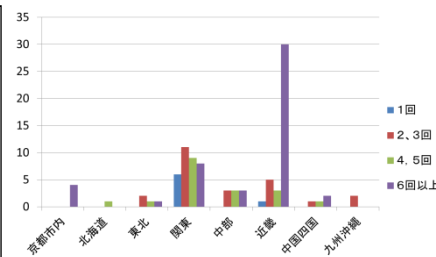
## 3.調査方法と結果

### アンケート調査

2013年6月7日に貴船社にて主に若年層を中心に100名にアンケートを行った。

京都を訪れている観光客は今までに、何度も京都を訪れたことがあるのかを知り、今後なぜもう一度訪れたいと思ったのかなどを知り、京都の魅力などを聞くための基礎調査としてこの調査を行った。

- ・近畿地方のリピーターが圧倒的に多い
- ・6回以下は近畿より関東のほうが多い。
- ・全体的に京都はリピーターが多い。
- ・北海道や東北からの観光客自体がすくないが初めての人はない。
- ・多くの観光客が京都観光に満足した来たと思っている。



(図表 2. 住居別訪問回数)

### インタビュー調査

2014年11月12日に京都ゲストハウス「らんとん」の経営者浦部氏と従業員柏原氏

近年、訪日外国人観光客が「ホテル・旅館」ではなく、簡易宿泊所として「ゲストハウス」を多く利用しており、ホテル・旅館との相違点、ゲストハウスならではの利点、今後の宿泊客に対する課題を考え、魅力の発信、向上に貢献するため、インタビュー調査を行った。

- ・若年層が多く、男性よりも女性の方が多い。
- ・団体客は苦手で。繁忙期では断っている。
- ・繁忙期、閑散期で値段は変えていない。
- ・価格が安く、お客さん同士やスタッフと交流ができる。



(図表 3.京都ゲストハウスらんとん)

### 考察

京都は、観光に再び訪れたいと思われ、実際に多くの人が何度も足を運んでいる。

しかし、宿泊者は少なく歴史情緒溢れる旅館数が減少してきている。

また、ゲストハウスは価格の安さやお客さん同士で交流ができることが旅館・ホテルと大きく違い、「最大の魅力」といえる。

しかし、帰宅時間などのルールを守れないお客さんがトラブルをおこすことがある。

### 今後の課題

「観光客が京都をもう一度訪れたいとなぜ思ったのか」などをさまざまな方向から分析し、観光客の動向をさらに調査する必要がある。

さらに、より多くのゲストハウスにインタビュー調査を行い課題の解決方法やより深く魅力を発見し知名度の向上に貢献したい。

今後これらのことを重点に置きながら京都でのアンケート調査、旅館やゲストハウスへのインタビュー調査を積極的に行っていく。

### 研究成果の公開

2014年8月29日 韓国の慶州市東国大学で開催された東北亜観光学会に参加、発表し、奨励賞を受賞した。

また、2014年9月10日に阪南大学あべのハルカスカンパスで行われた関西観光教育コンソーシアムで発表した。



(図表 5.東北亜観光学会)